



林木育種センターの海外協力等について

指導普及・海外協力部長 宮 俊輔

林木育種センターの海外協力課では、JICA 技術協力プロジェクトへの参加及び短期専門家の派遣、国際共同研究の推進、海外からの研修生の受け入れ、国際学会への職員の派遣、海外での林木育種事情の調査などを実施しています。

海外協力課は、1991年10月に、5つの林木育種場から林木育種センターと4つの育種場に組織再編された際に、林木育種センター内に新設され、その後、海外事業を30年以上実施してまいりました。

これまで、JICA 技術協力を南米のウルグアイや、アジアでは中国、インドネシア等の国々で実施してきました。また、アフリカでは、ケニアのプロジェクトに参加し、現在も継続して実施しています。

国際共同研究では、これまで14の外国の研究機関とMOU（覚書）を締結し、国際的な研究を推進してきました。現在、ケニア森林研究所とアフリカの郷土種であるメリアとアカシアの育種等について、台湾林業試験所とは、太平洋諸島、東南アジア等の海岸部に生育するテリハボクの育種等について共同研究を実施しています。

さらに、海外からの研修生の受け入れでは、これまで103カ国から延べ約2,000人の研修生を受け入れ、研修を実施してきました。海外からの研修生は、日本の林木育種に対して非常に高い関心を示しており、林木育種分野の技術協力をしてほしいとの声が寄せられています。

一方で、海外技術協力等の予算が限られる中、

海外への渡航費や滞在費、物価の高騰等により、その対応は厳しい状況になっております。

このため、今後は、より効率的かつ効果的に海外協力事業や国際共同研究等を実施していく必要があると考えております。例えば、これまでは国内で開発された成果を海外に技術移転を行っていく手法が多かったですが、今後は、国際貢献ができ、かつ、国内の育種の研究にもフィードバックできる海外での研究分野を見つけ、国内の育種の研究とコーディネートしながら、戦略的に海外での育種研究を行っていく必要があると考えております。

ケニアで育種の研究を進めているメリアは、日本のセンダンの仲間ですが、熱帯性の気候のケニアでは非常に成長が早いので、精英樹の選抜を早く進めることができます。プロジェクトでは、現地で育種を始めてから10年で、第2世代の精英樹選抜を行うことができました。また、さし木によるメリアの苗木の増産を行うために、現地では様々な方法を試験しています。このようなケニアで得られた研究成果については、国内のセンダンの育種等の研究にも役立てることができると考えております。

林木育種センターでは、今後とも海外での技術協力や共同研究等を進めるとともに、その成果を国際学会で発表することなどを通して、国際的に活躍できる職員の育成も図っていきたいと考えております。

【紙面紹介】

特定母樹の指定・配布状況について2
 ケニア森林研究所研究員の訪日研修について3
 原種増産技術の最適化と施設型採種園の
 管理技術の開発に向けた補助事業4
 特定母樹等普及促進会議とブロック会議
 育種分科会・育種情報交換会について5

モニタリング試験地(福島県檜枝岐村)における
 ブナの種子の豊凶調査6
 国際会議IUFRO Tree Biotechnology 2024
 に参加して7
 令和6年度林業研究・技術開発推進関東・
 中部ブロック会議育種分科会を開催8
 一般公開「第27回親林の集い」を開催8



国立研究開発法人 森林研究・整備機構
 森林総合研究所林木育種センター

Forest Tree Breeding Center, Forestry and Forest Products Research Institute